

彼岸だより

お彼岸

お彼岸の初日を「彼岸入り」、真ん中の日を「中日」、最終日を「彼岸明け」と呼び、春彼岸は「春分の日」を中心とした前後三日間〔合計七日間〕が、お彼岸として指定されています。

元々「彼岸」という言葉の語源は、サンスクリット語の「paramita〔パラミタ〕」で、日本においては音写で「波羅蜜多」と表記されました。「波羅蜜多」の漢訳は「至彼岸」に「彼岸」ということから、「彼岸」とは「悟りの世界〔浄土の世界〕へと辿り着く」という意味になります。日本の佛教では、「此岸」と「彼岸」という概

念があり、「此岸」とは、こちら岸。欲や煩惱にまみれた世界〔この世〕。「彼岸」とは、向こう岸。佛さまの住む浄土の世界〔悟りの世界、あの世〕を意味します。

この此岸と彼岸のあいだに流れる川のことを「三途の川」と呼びます。佛教伝来後の日本では、下記、二つの理由から、「お彼岸の時期に佛教修行を行うこと」で、悟りの境地である浄土の世界〔彼岸〕に至ることができるといふ思想が生れました。

① 西方の遙か彼方に浄土の世界〔彼岸〕があるとする「西方浄土」の考えに基づき、太陽が真東から出て真西に沈むお彼岸の時期は、浄土への道標ができる。

② 昼夜がほぼ同じ長さになることから、一年のなかでこの世〔此岸〕と浄土〔彼岸〕との距離が最も近くなり、思いが通じ易くなると考えられています。

花まつり

お釈迦さまのお生まれになった四月八日に、その誕生を祝う行事です。

花々に彩られた花御堂のなかにはいらつしやる小さなお釈迦さまのお像に甘茶をかけたことがあるかたもおられるかもしれません。

これは、お釈迦さまが誕生された際、天から神々が降りて来られて、祝福のために甘露の水〔清らかな水〕を注いだという経典の説示に由来

します。是非、お寺に足を運んで頂き、甘茶とともに、お釈迦さまの誕生をお祝いしてみませんか？

合掌

2025年行事

1月	1日～	3日	正月三が日
3月	17日～	23日	春彼岸
4月	8日		花まつり
8月	13日～	15日	盆
9月	20日～	26日	秋彼岸
12月	31日		除夜の鐘

